

金沢問屋町連携事業の研究

A Study of the Cooperation Project in Toiyamachi, Kanazawa

真鍋 淳朗 MANABE Junro (研究メンバー代表)
坂本 英之 SAKAMOTO Hideyuki
中瀬 康志 NAKASE Koji

1. はじめに

2010年5月金沢美術工芸大学は協同組合金沢問屋センターと「問屋町の街づくりに関する協定」を締結し、その一環として「問屋まちスタジオ」が開設された。2011年から活動が開始され、金沢美大の卒業生・修了生による旧印刷工場跡の改装工事から始まり、現在では、ギャラリースペース、制作スタジオ、アーティスト・イン・レジデンスの滞在スペースが確保されている。

ギャラリースペースは、作品展示からアートプログラムの展示発表まで自由で実験的な空間として機能し、制作スタジオは、金沢美大の学生、卒業生・修了生を中心に将来が嘱望される作家の制作アトリエとして提供され、より個性的な創作へのサポートが行われている。アーティスト・イン・レジデンスの滞在スペースは、国内外のアーティスト、クリエーター、キュレーター、建築家、デザイナーなど様々な分野の人々の交流の拠点として機能している。



2. 「問屋まちスタジオ」の実証研究

5年間に亘る「問屋まちスタジオ」の活動を更に進めて、アートが街を活性化させる優れたツールであり、「アート」を組み込んだ街づくりの仕組みは「街おこし」にとって多様な選択肢の提案となり、「問屋まちスタジオ」の活動を通じて将来のアーティストを育成することが可能であることを実証するために平成26年度は以下の事業を行った。

(1)陶芸ワークショップ (2)彫刻専攻中瀬研究室展示「しこ展」 (3)北加賀屋クロッシング2013 MOBILIS IN MOBILI-交差する現在-展 (4)「堀至以二人展-TRACE2-」 (5)「問×美」2014 (6)「電気が消えた」 (7)演劇公演／道化師たち-ロバとせむしがしあわせはこぶ- (8)原田昌典+橋本知成「気色をつなぐ」展 (9)実験展示／中瀬康志+堀至以作品展示 (10)「エポックガーデン」展 (11)環境デザイン専攻坂本研究室 問屋まちコンペ

これらの活動を通じてアートを志向する学生達と問屋町の企業の皆さんとの関係が強固なものに成りつつある。学生達は現実の厳しい経済活動の中でアートを思考することで現実的な社会体験ができており、プロ意識を持ったアーティストを育成する環境となっている。そして地域住民がアートを体験できるワークショップや本学研究室によるゼミ単位での研究成果報告展（アーティスト・トーク、レクチャー、コンペを含む）、学生や修了生のグループ展、国内を巡回している展覧会の金沢での受け皿として機能している。

また、問屋町の企業から提供された素材を使って

学生たちが新たな作品づくりに挑戦できる場となり、地域住民を対象にした演劇公演やアーティスト・イン・レジデンスの受け皿にもなっていて、その活動は多岐に亘っている。

昨年度から、問屋まちスタジオ運営協議会が毎月定例で開催され、協同組合金沢問屋センターと金沢美術工芸大学の連携による企画が数多く進められた。さらに2年後の問屋町創立50周年に向けてのグランドデザインを協同で進めていくことが確認された。そのために、「問屋まちスタジオ」がより効率よく確かな活動・運営が遂行できる新たな組織づくりにも言及され、後述する新組織創設の研究が石川県文化創造普及事業の認定を受けて進められている。

今後も「問屋まちスタジオ」は、国内外のオルタナティブスペースと連携しながらアートのネットワークを構築し、人的交流を活発化させる場を生み、本学の学生、卒業生、修了生のインキュベーションの役割を担い、街に広範囲な波及効果が与えられることをめざしていく。





3. 問×美2015 – JOINT –

2012年、2014年と開催してきた「問×美」は、問屋町の企業から提供された素材から金沢美術工芸大学の学生・教員が試行錯誤して新しい作品を生み出していくアートプロジェクトである。

平成27年度の事業として「問×美2015-JOINT-」を開催するにあたり、問屋町の企業21社から素材と技術の提供があり、それをもとに複数の学生が共同して問屋まちスタジオの空間を作り上げた。展覧会期間中も制作を継続し各々の個性がぶつかり合うことで混沌とした空間が日々変容していき、未知な素材と非日常な場を与えられたことで学生達にとって挑戦的な表現となった作品が散見された。さらに問屋町団地内の11企業の社内スペースの提供をうけて、問屋まちスタジオで制作している学生達個々人の作品も展示した。

問屋まちスタジオの共同作品と11企業の社内で展示している個々人の作品との対比も含めて楽しんでもらうと同時に、問屋まちスタジオが拠点となり、問屋町団地内にアートによるネットワークが構築された。

展示期間中に、陶芸家 四井雄大氏による4度目となるワークショップが「陶芸でうつわを作るワークショップ」をテーマに行われ、リアルな制作の話などを交えながら実際に使える器作りが体験できた。また、アーティスト 高本敦基氏によるレクチャーが「卒業後の制作とゲンジツ」をテーマに開催され、美大を卒業してからの制作と、現在取り組んでいる地域（岡山県美作地域）を拠点にした活動に至るまでを通して、作家自身も学生時代に不安だった「卒業後」の一例について語られた。

4. 問×美2015 – JOINT – 活動報告データ

開催期間：2015年9月25日(金)–10月9日(金)

13時–18時 入場無料

会場：問屋まちスタジオ（金沢市問屋町1丁目90）

問屋団地の企業内展示スペース

主催：協同組合金沢問屋センター

金沢美術工芸大学

後援：北國新聞社

協力企業：株式会社つくる 株式会社たなかや
 北日商事株式会社 北越エンゼル株式会社
 株式会社新井通信システム 株式会社コシハラ
 株式会社ドットコム 成瀬電気工事株式会社
 株式会社東山商会 株式会社ほくつう
 丸六株式会社 川崎株式会社 丸与商事株式会社
 石川トヨペット株式会社金沢西店 泰和
 ゴム興業株式会社 株式会社ヤギコーポ
 レーション 株式会社アイネックス 川上
 産業株式会社 株式会社マツモト 小川商事
 株式会社 株式会社五井建築研究所 株式
 会社シキケミカル 有限会社吉野利工具 株式
 会社北國銀行問屋町支店 株式会社北陸銀行
 金沢問屋町支店 金沢信用金庫問屋町支店
 金沢問屋町郵便局

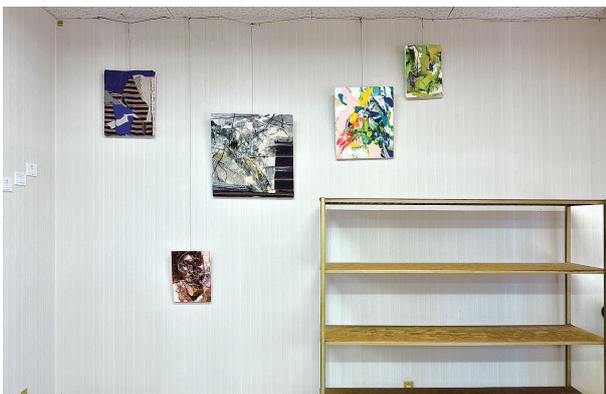
参加学生・教員：杉本小百合（学部工芸科1年） 大
 野三結（学部油画専攻3年） 沖田愛有美（学
 部油画専攻2年） 中桐聡美（学部油画専攻
 2年） 中島大河（学部油画専攻3年） 野木
 麻美（学部油画専攻3年） 山中亜衣（学部日
 本画専攻4年） 佐藤文（学部工芸科4年）
 楓大海（大学院油画コース1年） 高橋直宏
 （大学院彫刻コース1年） 千川岳志（大学院
 油画コース1年） 早川璃（大学院油画コー
 ス1年） 米田貫雅（大学院油画コース1年）
 真鍋淳朗（油画専攻教授）

メディア取材：北國新聞 北陸中日新聞 金沢ケー
 ブルテレビ

入場者数：120名

助成：平成27年度 問屋まち活性化活動支援事業
 平成27年度 金沢美術工芸大学特別研究
 金沢美術工芸大学開学70周年プレイベントとして開催







5. おわりに

以上のような活動成果を更に発展させていくために、石川県文化創造普及事業の認定を受けて、問屋まちスタジオ内に金沢美術工芸大学、協同組合金沢問屋センター、NPO法人金沢アートグミが連携した組織「問屋まちアートファクトリー」を創設する構想が進んでいる。その内容は以下のとおりである。

石川県の歴史や風土から育まれた伝統工芸と、県内に集積する地元企業や高等教育機関が連携することで新たな文化創造を可能にする拠点として「問屋まちアートファクトリー」を問屋まちスタジオ（金沢市問屋町1-90）内に創設する。県内に点在する伝統工芸の作り手と地元企業をつなぐ役割を「問屋まちアートファクトリー」が担い、そのマネジメントと事務局機能を担当し、石川県独自の文化創造ネットワークを構築する。具体的な事業として、地元企業とアーティスト・デザイナー・伝統工芸作家

および金沢美術工芸大学とのコラボレーションにより、知的財産の有効活用による新規製品・作品を開拓し、その成果物のマーケティングや石川県独自のアートフェアやアート・トリエンナーレを企画・運営する。新たな文化創造のシーズが生まれ、その萌芽を社会化する本事業の過程をWebサイトやマスメディアを通じて石川県から国内外へ発信していく。

期待される波及効果として、「問屋まちアートファクトリー」の創設は、アート&クラフトに関して相談のできるワンストップ組織として機能し、県内に定住している地元工芸作家や若いアーティスト、本学の卒業生、修了生のインキュベーションとしての役割を可能にする。新たな文化創造・発信の場の創出により、伝統工芸作家や高等教育機関の学生たちによる発表の機会が広がり、石川県に転入してきた高等教育機関の卒業生・修了生の県内定住者増加にも寄与できる。

石川県文化創造普及事業認定期間の3年間に「問屋まちアートファクトリー」を一般社団法人化するためのファンドレイジング研究も並行して行い、アートと社会との新たな関係を提案していく事業を継続的に行えるように独立採算性を可能とする組織体をめざす。

(まなべ・じゅんろう

油画専攻／アートプロジェクト)

(さかもと・ひでゆき

環境デザイン専攻／都市・建築デザイン)

(なかせ・こうじ

彫刻専攻／ミクストメディア)

(2015年10月30日 受理)